

福島からあなたへ 2016



三重

武藤類子さんをお招きして



2/21 (日)

13時 開場、13時半 開会

四日市市文化会館
第3ホール

三重県四日市市安島 2-5-3

TEL 059-354-4501

近鉄四日市駅西口から徒歩約9分

協力費 前売券 500円

当日券 700円

(避難者と高校生以下は無料)



第1部 武藤類子さんのお話

「原発事故は終わらない」

武藤類子(むとうるいこ)さんプロフィール

1953年福島県生まれ。福島県三春町在住。
和光大学卒業後、版下職人、養護学校教員を経て、
1986年のチェルノブイリ原発事故を機に反原発運動にかかわる。

2003年に里山喫茶「燦(きらら)」を開店。福島第一
原発事故発生以来、住民や避難者の人権と健康を守る
活動に奔走している。現在、福島原発告訴団団長。

著書に『福島からあなたへ』(大月書店)、『どんぐりの森から』(緑風出版) 編著に『これでも罪を問えないのですか!』がある。

2013年12月、「第9回 女性人権活動奨励賞(やより賞)」を受賞。

第2部

三重への避難者、
支援者との話し合い(予定)

【主催】武藤類子さんを三重にお招きする会

※これから賛同団体を募集していきます。
脱原発や避難者支援に取り組んでいる
団体のご協力をお願いします。

【連絡先】携 帯：090-2925-0138 (伊藤)

メール：ikkoito4621@m6.cty-net.ne.jp

※裏面に、武藤さんのスピーチの一部を紹介しております。ぜひお読みください。



さようなら原発 さようなら戦争 集会、武藤類子さんスピーチ (代々木公園)



皆さん、こんにちは。福島から参りました、武藤類子です。

今日も、福島からバスでやって来た仲間たちがいます。遠い避難先からやって来た仲間もいます。東京電力が起こした福島原発事故は終わっていません。今も被害は広がり、続いています。日々、福島で起きていることの多くは、マスメディアで報道されることもありません。

2015年、秋。あれから4年半。

ほのかに色付き始めた福島の森はなお美しく、水は清冽な音をたて流れて行きます。野には紫のアザミや青いツユ草が揺れています。でも、森の中の朽ちた樹木に見え隠れするキノコを食べることはできません。アケビ、ナツハゼ、ハシバミ、秋の稔りを素直に喜ぶことはできません。物言わずじっとたたずむ植物たちに、変わらず生を営む鳥や虫や獣たちに、何が起きているのでしょうか。毎日大量の汚染水が流される海で、魚や海の生き物たちはどうしているのでしょうか。大地や樹木、アスファルトに入り込み、今も発せられる放射線はあらゆる命に何をもたらすのでしょうか。豊かな生命を育む、大地も森も水も風も深い傷を負ったままです。



福島県は今、

帰還と復興の激しい流れに呑み込まれています。国と福島県は、放射線量がまだ充分下がりきらない地域の避難指定を解除し、避難者の借り上げ住宅制度の廃止や賠償の打ち切りを、当事者の声を十分に聴かぬままに決めました。オリンピックに注がれる莫大なお金で何人の避難者の生活が保障されるでしょう。

ぼんやりとうごめいていた不穏なものは、はっきりと姿を現してきました。

私たちは自覚しなければなりません。国が子どもを守ろうとしないことを。被害者が切り捨てられていくことを。原発関連企業がその罪を問われないことを。政府が国民の声を無視することを。この呆然とする現実を前に、膝をつき言葉を無くす日々があります。起き上がれずに、目を背けたい朝があります。



でも、私たちは自分を無力だと思わなくていいのです。

「9条守れ」「戦争いやだ」のプラカードを手に、雨の中も国会の前に立ち尽くす何万という人々がいました。年齢や立場、党派をも超えて共に闘う人々がいました。原発事故の被害者たちは共に手を繋ぐことを約束しました。全国散り散りになった避難者も、繋がっていきこうと動き出しました。刑事責任を問わない検察庁の代わりに、市民による検察審査会は、刑事裁判への扉を開きました。それは、長い間コツコツと、平和と原発反対を訴え続けて来た人々から繋がっています。緑の田んぼを渡る風のように、爽やかに吹き渡っていく若者たち。子どもを胸に抱きながら汗を光らせマイクを握る、戦争法案反対を訴える母親たち。そのシンプルで率直な感性とまぶしさは、私たちの世代が乗り越えられなかったものをやすやすと超えていくでしょう。わたしは彼らの心優しい賢さに学びたいです。

どんな暗がりにあっても、私たちは確かな明かりを一つずつ灯していこう。

今はまだ冷たい雪の下の一粒の種であっても、やがて一輪の花を咲かせる者たちを、心して待とう。私たちは、戦争法案にも、原発社会にも閉じ込められない、愛に満ちた自由な者たちです。そのことを、繰り返し思い出しましょう。自分を大好きでいきましょう。共に歩むものを大切にしましょう。誰も私たちの想いを止めることはできません。原発も戦争も無い世界を、私たちひとりひとりが創っていきましょう。

※ スピーチは、一部省略してあります。写真は、表の下段含めて9、23に撮影のものです。

● 2月21日当日の準備・運営に協力していただけるスタッフを求めています。一緒に携わっていただける方、ご連絡ください。